

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
福島第一原発事故調査に関する小委員会
第24期・第6回 議事録

平成31年1月8日

作成 澤田 隆

1. 日時 平成31年1月8日（火）10:00～12:00
2. 場所 日本学術会議5階 5-B会議室
3. 出席者 松岡委員長、白鳥、関村、柘植、成合、矢川、宮野、吉田、澤田幹事（越塚、中村、山本欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録案
 - 資料2 報告（案）
 - 資料3 今後の原子力安全規制の論点
5. 議事
 - 1) 前回議事録の確認（資料1）
 - ◎ 承認された。
 - 2) 報告（案）について（資料2）
 - ◎ 矢川委員より経緯について下記の説明があった。
 - 原子力安全に関する分科会では、反対：1名、無回答：2名以外の方は「承認」で形式上承認されたことになる。
 - 出来るだけ反対者も納得する形で総合工学委員会に上げたいので、矢川委員に一任という形にして貰い、本日の小委で議論することとした。
 - 本日の審議でOKということになれば、（原子力安全に関する分科会で審議することなく）総合工学委員会に上げることとなる。
 - ◎ 議論
 - 以前、事実だけの部分と議論が必要な提言の部分とに分け、事実だけの部分をまとめたものが、この報告（案）である。
 - 議論が必要な提言の部分をもとめるには時間が掛かるが、下記工程を考えて今期中に「提言」を出すことを努力目標とする。
 - 今期は2020年9月までであり、今期中に「提言」を出すためには第三部の査読を受けた原稿を4月末までに提出する必要がある。原子力安全に関する分科会、総合工学委員会の査読を考慮すると、実質作業時間は1年弱しかない。

3) 規制の在り方について (資料3)

- ◎ 関村委員より、8点の論点を再整理したとの説明があった (資料3)。
- ◎ 規制の在り方についても今期中に提言を出せるよう努力することとした。
- ◎ 議論
 - 万遍無く記載するより、焦点を絞る方が良いのではないか。
 - 事故前の「東電による規制の取り込み」が新規制になってどう変わったか？
 - NRC と比較してどうか？
 - 国民性の違いからコミュニケーション能力に大きな違いがあるのでは？
 - 人材の流動性が全く異なるのではないか？ それは何が原因か？
 - 給料等、人事システムが異なるのでは？
 - 事業者との関係と人材育成の二つが重要では？
 - (事故前は東電がとっていた) リーダーシップを誰が取るかが重要

4) 次回 2019年2月18日(月) 10:00~12:00

- ◎ 以前、削除することにした「議論が必要な提言の部分」を抜き出した資料を準備する [吉田、宮野委員]

以上